

NU-COIL LETTER

POWER OF COLLABORATION

VOL.4



藤掛 千絵 Chie Fujikake

Vol.1の中で、コラボレーションは混沌としていて大変だというお話をさせていただきました。一緒に何かを進めるのは、1人で進めるよりも時間がかかったり効率的でないこともあると思います。1人よりも2人、3人と人数が増えるほど物事を決めたり進めたりすることが大変になってくるのは当然かもしれません。教員同士の連携でも、学生同士の協働作業でも、教員と企業や団体の担当者の打合せでも、それぞれに事情がある人が集まれば、すんなりと事が運ぶわけではありません。そんな中で、ありきたりかもしれませんが、私なりに大切にしていることがあります。それは、

1. よく話すこと
2. 一回であきらめない

ということです。

「よく話す」というのは、例えば学生同士であれば互いの学生生活のことや、最近忙しいかなど。教員同士も最近の授業の様子や互いの学生の様子、互いの大学のことや、仲が深まってくれば家族のことなど。教員と企業や団体となると、互いに全く異なる普段の仕事や組織のことなどをよく知り合う必要があると思います。もちろん、相手が忙しくお話しできないこともあります。お話しができる関係性の中では、より安定した連携体制ができてくると実感しています。最初の打ち合わせでも、本題に入る前に、差し支えない範囲で色々と尋ねてみたり、自分のことを話してみたりします。

「一回であきらめない」は、色んな場面が想定できます。学生同士であれば、ミスコミュニケーションで大事なミーティングができなかった時に、あまり気にせずすぐにスケジュールをし直すとか、教員同士の連携であれば、「今年はあまり上手くいかなかったけれど来年はこうしよう」というように次へつなげることだったりします。一回でやめるのも時には「潔さ」ではありますが、回数を重ねた連携は洗練されてきますし、対話を重ねた関係性の上に成り立つ連携体制は互いにとって収穫の多い結果に結びつくように思います。